

様

抗がん剤による皮膚症状に使うお薬について

症状と時期、発現する部位によって使用されるお薬が変わります。以下にお薬と使用方法についてご説明します。

◎皮膚の乾燥を予防・治療するお薬

皮膚の保湿を目的として使用します。皮膚が乾燥する前から予防的にお使いください。

発現時期の目安：投与後3～5週間

保湿剤 1日3回以上 全身に塗布

- ・ヘパリン類似物質油性クリーム
- ・ビーソフテンローション



特に手洗い後には必ずお使いください。



川崎市立多摩病院 化学療法運営委員会・薬剤部

2020年3月

薬剤師

◎皮疹の発現を予防・治療する飲み薬

次回受診されるまでの間に皮疹が現れることがあります。そのため、あらかじめお薬を予防的に服用します。

発現時期の目安：投与日～投与後1週間

ミノサイクリン錠 50mg 1日1回 1回2錠



約6週間服用予定です。症状に応じて服用期間を延長する場合があります。

※同時に服用すると効果が弱まってしまうお薬があります。新しくお薬が追加になる際には薬剤師にご相談ください。

例) 酸化マグネシウム錠 330mg、クエン酸第一鉄Na錠 50mg など

◎皮膚に症状が出始めたときから使うお薬

次回受診されるまでの間に皮疹が現れることがあります。そのため、あらかじめお薬をお持ち帰りいただきます。皮膚が赤くなったり、皮疹が出始めたときから使用を開始してください。

発現時期の目安：投与日～投与後1週間

ステロイド外用剤 1日2回 皮疹が生じた部位に塗布

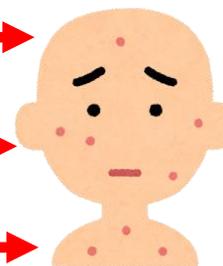
・頭→ ベタメタゾン酪酸エステル
プロピオン酸エステルローション



・顔→ ロコイド軟膏



・体→ ベタメタゾン酪酸エステル
プロピオン酸エステル軟膏



炎症を抑える外用薬です。お薬は皮疹が生じた部位によって塗り分けます。
なるべく皮疹部のみに薄く塗るようにします。

治療を必要とする皮膚症状

＜皮膚症状に対する治療＞

①乾燥してかさかさするところには、保湿剤（ビーソフテンローション・ヘパリン類似物質油性クリーム）をこまめに塗ってください。

②その後、赤いところにはステロイド外用剤（ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステルローション、ロコイド軟膏、ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル軟膏）を薄く塗ってください。

脂漏性皮膚炎



皮疹：ざ瘡/ざ瘡様皮疹



皮膚乾燥



爪囲炎



◎日常生活における注意点について

- 皮膚のケアを行きましょう。
 - ・ 弱酸性で香料、保存料を含有しない石鹸を使用する。
 - ・ シャワーはぬるめのお湯を使用する。
 - ・ 強い香料の洗剤を避ける。
 - ・ シャワーまたは入浴後に保湿クリームを乾燥部位に使用する。
- 爪のケアを行きましょう。
 - ・ 伸ばしすぎや深爪は避ける。
- 日焼けを避けましょう。
 - ・ 日中外出する際には日焼け止めを使用する。



副作用が現れたとき（いつもと違うと感じたとき）には我慢することなく、医師・薬剤師・看護師にお知らせください。